

# 最終報告書

報告者氏名：羽鳥洋美 所属：東京都立砂川高等学校(普通科定時制) 記録日：2015年2月25日

## 【対象生徒の情報】

・学年 高等学校2年

・障害と困難の内容

○病院や発達相談関係の機関での診断はない。他人と関係を結ぶ点での困難さ、特定の事へのこだわりがみられるが、知的発達の遅れや、言葉の発達の遅れはない。

○他人との関係を結ぶ点での困難さが生んだ出来事

例1) 校外での実習で、活動場所に到着せず、不参加。

例2) 文化祭準備で、各々が自主的に作業する時間、クラスから離れた場所で自習。

例3) 定期考査中、配布された問題用紙が不足。終了直前に試験監督に伝える。

⇒コミュニケーションを進んで自分からとろうとはしないが、自分にとって必要とあらば、きちんと訴えることはできる(例3)。また、特定の事へのこだわりは、決してマイナスではなく、周りに左右されずにきちんとやるべきことはやるというとても良い点と考える(例2)。ただ、いつもと違う場での出来事は、本人として対応しづらいようすを見せる(例1、例2)。

## 【活動報告】

(ア) 活動の当初の目的やねらい

1 伝える：

・端末で伝えることで、「伝わる」「伝わりと生きやすい」を実感する。

2 情報を得る

・端末の活用により「情報を得て準備万端!」「想定外でも大丈夫」を実感する。

3 必要最低限のやりとりをする。

・機器の活用と言葉で、自分から人に支援を求められるようにする。

4 遊ぶ

・自由時間の行動の選択肢を増やす。

(イ) 活動を実施した期間：実施期間 6月10日から現在まで

(ウ) 活動の実施者：羽鳥洋美

(エ) 実施者と対象生徒との関係

実施者は、今年度、都立八王子東特別支援学校から異動し、実施校に勤務。保健相談部に所属し、国語の授業を担当。また、特別支援コーディネータとして、様々な支援の形を模索したり、個別の支援計画を作成したりしている。保健相談部の相談活動の一環として、毎日12時から12時40分、16時から16時40分の2回、談話室「しゃべり場」を開いている。これは、同世代の友人とでは会話をもちづらい生徒が存在するという本校の実態を踏まえ、そういった生徒たちにとってのもう一つの居場所となることを目指して、相談室を開放する活動である。実施者も、毎週火曜日の12時から16時の時間帯に、担当者として相談室に控えている。

対象生徒は、実施者とは、授業でのかかわりはない。養護教諭より、コミュニケーションが極端に取りがたい生徒として相談され、実施者が、火曜日のしゃべり場での交流を中心にかかわっている生徒である。

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### 対象生徒の事前の状況

前述した対象生徒の抱える困難さによって生じた出来事を以下にまとめる。

2013年10月：文化祭時、昼食場所を「適当にこのあたりでとること」の指示に、弁当は食べないまま、そこに立ち続ける。

2014年2月：東京近郊への校外学習の帰路、某地方都市の駅で解散、各自帰宅となったが、解散場所に立ち続

け動かない。担任教師が「帰り道分かるか？」と聞くと、首を横に振るので、担任とともに一緒に帰る。  
 2014年5月：近づいてきた本生徒に、担任教師が「どうしたの？」と質問すると、小指を見せる。よくよく聞き出すと、自転車でけがをした顛末を、順序よく話す。  
 2014年6月：期末考査時、問題用紙を1枚もらっていないことを、終了時間直前、試験監督に伝える。  
 2014年7月：校外での奉仕活動で現地集合をした際、集合場所までたどり着けず、不参加となった。  
 2014年10月：文化祭準備中、クラスに入らない。翌日は、別の場所で自習している。クラスのポスター作りを依頼すると、すぐに取りかかり、指示通り自分でクラスに持って行く。

以上のように、生徒は、慣れない場所や状況、突発的な事態に即座に対応することは難しい。しかし、けがをしたときに本人にとって慣れている担任に自分から伝えに行ったこと、試験の終了間際ではあるが用紙の不足を自分から訴えたこと、2年目となった文化祭では準備二日目に自分の居場所を作ったこと、等から、ゆっくりではあるが自分にとって必要な行動を起こしていく力があると考えられる。とはいえ、彼にとって不測の事態、想定外の出来事は多く、それらへの対応が遅れることは否めない。

## コミュニケーション面の困難さから、 A君自身困ることが多少起こっていた……。

試験中、問題用紙の不足を試験監督に終了ぎりぎりまで伝えない。

校外学習で、解散場所から自宅へ帰る方法がわからないが、そのまま佇んでいる。

校外活動で、目的場所までたどり着けず、自宅へ戻る。

文化祭準備中、クラスから離れ、一人でベンチに座っている。

### ○学習面

- ・書く；文字へのこだわりから時間はかかるが、正確にノートを取ることができる。
- ・読む；問題なし。
- ・理解；内容が複雑になったり想定外になると理解しにくくなることもある。

内容に関する質問はしないので、周囲の手助けがあるまで、そのままの状態が続く。

### 活動の具体的内容

○実施した時間帯：火曜日 12時10分から12時40分（正味20分）

○使用したアプリ：中高生日本史、タッチで日本史、幕末志士検定、メール、パラパラ漫画、乗換案内

○活動の様子：



伝える力、コミュニケーションの力を伸ばせ！

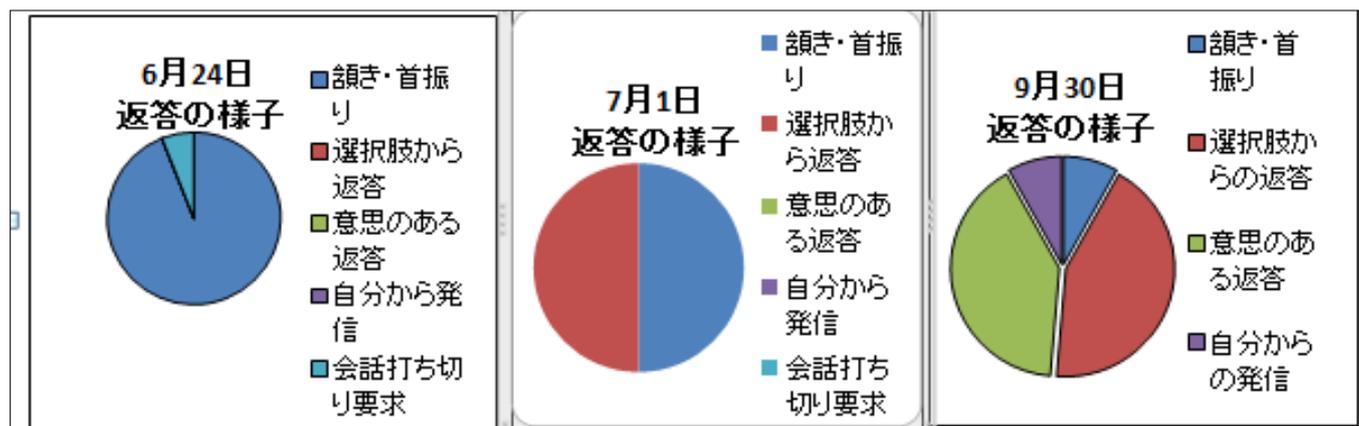
面談回数は、全部で12回。実施時間は、昼食時で生徒が昼食を取ってからの開始となるので、平均正味20分と言ったところだった。以下、初回、6月、7月、9月、2月のやりとりの記録を記す。

	ねらい	様子	使用したアプリと効果
6/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊ぶ</li> <li>端末を介してコミュニケーションをとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はお弁当を食べながらも、端末を見ている。「中高生日本史」アプリを見せると、右手を伸ばし、操作し始める。</li> <li>私からの質問には、首を縦に振るのみ。</li> <li>「ゲームは家でやるの？」の質問にのみ、「少し」と答える。</li> </ul>	<p>中高生日本史</p> <p>バラバラに配置してある文字を組み合わせて解答を作る。</p>  <p>★ヒントがあるので、必ず何らかの解答を出すことができる。飽きずに時間いっぱいやり続けていた</p>
6/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊ぶ</li> <li>端末を介してコミュニケーションをとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行はいく？→うなずく。[単純返答]</li> <li>何で行くの？電車→うなずく。[単純返答]</li> <li>寝台車は？→首をかしげる。[単純返答]</li> <li>好きな電車は？→首をかしげる。[単純返答]</li> <li>「もういいよ」。[会話打ち切り要求]</li> <li>「中高生日本史」アプリに手を伸ばし、時間まで行う。「難しいね」との私からの言葉に、顔を向けうなずく。[単純返答]</li> </ul>	
7/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊ぶ</li> <li>端末を介してコミュニケーションをとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前日、試験中だが、来るか尋ねると、うなずく。今日、談話室があくまで、廊下で待っている。</li> <li>座り試験勉強を始める。</li> <li>「次は何？」の質問に、「国語」と答える。[単純返答]</li> </ul>	
9/30	必要情報を得るため、端末を活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもより、20分遅れるが、来室。</li> <li>すぐに「端末忘れました」と報告する。[自分から報告]</li> <li>情報を端末でやりとりすることが今後必要になるので、メールには返信することを再度依頼。</li> <li>作文は得意？→読むことの方が…。[意思のある返答]</li> <li>読書はどんな本を読むの？→決めてはいない。[単純返答]</li> <li>今までおもしろかった本は何→水の惑星。[単純返答]</li> <li>日本人の書いた本？厚いの？→日本人。(厚さは)びみょう一。[単純返答]</li> <li>将来はどうしたいの？→決まっていない。[単純返答]</li> <li>家にいたい？→どちらでもいい。[単純返答]</li> <li>ずっと親にお金もらうの？→それはいや。[意思のある返答]</li> <li>ゆくゆくは働きたいの？→うん。[意思のある返答]</li> <li>どんなジャンルで働きたいの？接客？事務職？→無言[思考・困惑]</li> <li>イラストや字を書く仕事？→はい。[意思のある返答]</li> <li>絵はどんな絵を描くの？→特にない。[単純返答]</li> <li>今までどんな絵を描いたの？→鳥とか。[単純返答]</li> <li>絵の具？→色鉛筆。[単純返答]</li> <li>鳥は詳しいの？→詳しいってほどではない。[単純返答]</li> <li>メール毎日出すので、返す練習をしよう。大切なときにやったことないことはできないよ。→はい[単純返答]</li> </ul>	

		・先生、時間、とって急いで行ってしまう。 <b>会話打ち切り要求</b>
2月17日	必要情報を得るため、端末を活用する	<p>3か月ぶりの面談。正味10分程度。</p> <p>「沖縄、時間通りに羽田に行けたんだって？」⇒うなづく。</p> <p>「行き方調べたの？」⇒うなづく</p> <p>「家のパソコン？」⇒うなづく</p> <p>「沖縄楽しかった？」⇒うなづく</p> <p>自分のiPadで何か調べ出す。蝶の画像を見ている。</p> <p>「もしかして、沖縄で蝶みつけた？おおごまだら？」⇒首を振る「でも蝶は見た」と、鞆から修学旅行のしおりを出し、見せる。</p> <p>裏表紙に、美ら海水族館の水槽のイラストが！</p> <p>「これ描いたの？」⇒うなづく</p> <p>「すごい、何か見たの？」⇒「思いつくまま写真を見て描いた」</p> <p>「時間かかった？」⇒「帰りに描いた」</p> <p>「帰りって飛行機の中？」⇒うなづく</p> <p>「じゃあ、1時間くらい？」⇒「いや、2時間」</p> <p>見事なイラストに感激し、ずっとお勧めしたかったカリグラフィーのことを話す。</p> <p>「カリグラフィー、もし練習蝶とかあったらやってみる？」⇒うなづく</p>
<p>2月17日、この日初めて、面談終了時間を自分で確認することなく、蝶調べ、カリグラフィの話、イラストの話に夢中になっていた。初めて、彼の土俵で話をすることができた！</p>		

**対象生徒の変化とそれに関する主観的気づき**

1 「伝える力」「コミュニケーションの力」について



**○質問への受け答え数の増加&質の変化**

言葉での返答は9月30日急増した。私とは、週に1回正味20分のかかわりで、通常と異なる状況を受け入れることが苦手な本生徒にとって、私との時間は負担になるかと当初は考えていた。

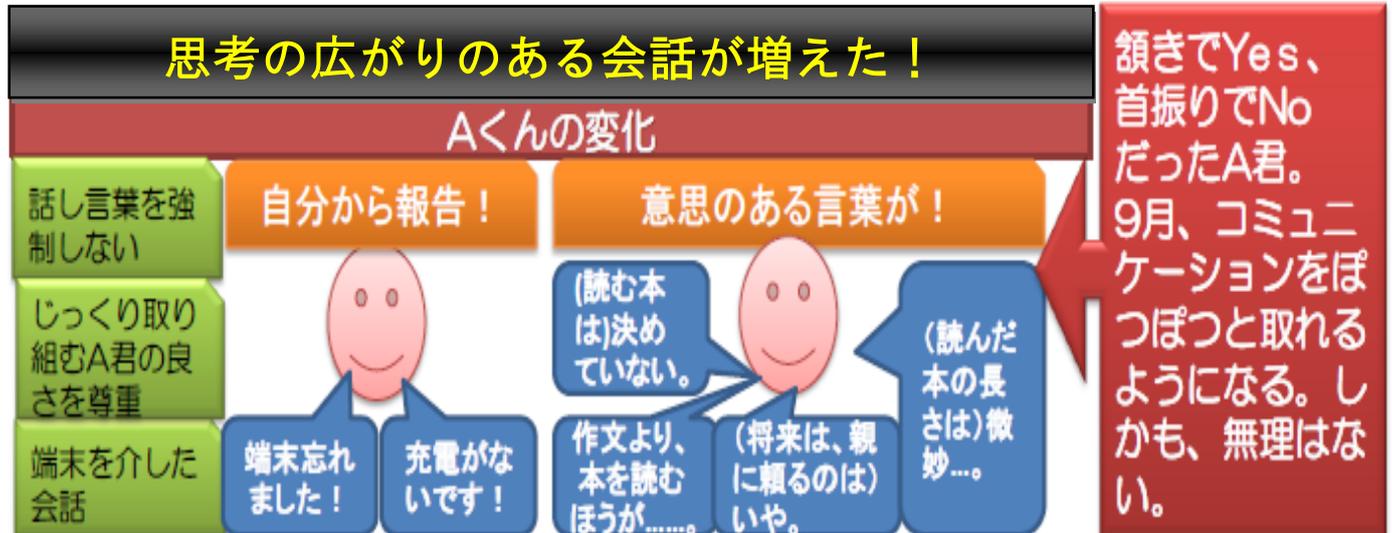
6月には、こちらの質問にうんざりし、「もういいよ」と自分から話を打ち切っていたこともあったが、現在では、短い言葉ながら、すべての質問に答えるように、明らかになっている。

また、6月には、質問にただ答えるのみで、意思を感じる返答は皆無、当然ながらこちらの質問を受け取った思考の広がりは見られなかった。さらにすぐに「もういいよ」と質問を打ち切るなど、コミュニケーションを拒絶する言動があり、言葉によるやりとりにうんざり、といった様子であった。

これに対し、9月30日は、端末を忘れたことをまず自分から報告するところから、目的を持って入室していることが見受けられた。また、私からの質問は倍増したが、打ち切りを要求することなく答えている。単純な返答が半数以上だが、意思、思考の広がりを感じさせる返答が3割有った。

○彼らしいスタイルのお土産話をもらった！

2月17日、3か月ぶりの面談では、彼は私に、修学旅行の思い出をお土産に持ってきてくれた。その日、彼は蝶をしきりに調べていた。すでに終わった修学旅行のしおりをかばんに入れていたこと、即座に蝶を調べたことから、彼が、修学旅行の報告をしようと考えていたと推測できる。そして、彼は、言葉でのコミュニケーションは苦手だが、ツールを間に入れて、伝えたい事を伝えようとしていること＝端末をコミュニケーションツールとして活用しようとしていること、得意なイラストで、雄弁に語れることが分かった。



●主観的気づき

そのような変化が見られるようになったのはなぜか。理由として考えられることをまとめる。

★話し言葉を強制しない

私とのかかわりは週に正味 20 分で、本生徒がこのかかわりを拒絶しようとするればいつでも拒絶できる状況であった。話し言葉を中心に生きているのではないことが見受けられたので、決して会話を無理強いせず、安心できる関係づくりを心掛けた。このことで、彼の中での心理的ストレスはなく、週に一度の通う場所になっていたと思われる。

★じっくり取り組む彼の良さを尊重

ゆっくりと丁寧に字を書いたり、繊細な鉛筆画を描く A くんの良さを、おおいに評価をした。(実際、絵も字も素晴らしく、尊敬に値するものだったのだ。)

★端末を介した会話

2月17日の面談では、彼は蝶をしきりに調べていた。すでに終わった修学旅行のしおりをかばんに入れていたこと、即座に蝶を調べたことから、彼が、修学旅行の報告をしようと考えていたと推測できる。そして、彼は、言葉でのコミュニケーションは苦手だが、ツールを間に入れて、伝えたい事を伝えようとしていること＝端末をコミュニケーションツールとして活用しようとしていることが推察できる。

2 「情報を得る」について

○得たい情報ができた、情報を得る手段を知った

乗換案内ですぐに羽田空港を検索したり、ナビに関心を示すなど、端末を活用することへの意欲が見られていた。修学旅行本番では、当日の朝、集合時間に指定の集合場所に到着することができていた。本人は、地図を読むことが苦手と言っており、それも行動を制限している因子と考えられていたが、「準備万端」にするための情報活用方法を学び、実践できていた。

●主観的気づき

情報を得なければ、と本人が心から思っていたことで、端末やアプリへの興味が芽生え、活用に至ったと言える。一人で、羽田空港まで指定の時間内に到着できたことは、大きな自信につながったと考える。

3 「必要最低限のやりとりをする」について

○メールは、進展なし……

修学旅行で担任やクラスメートとやりとりをするため、メールのやりとりを促していた。しかし、催促をしても返信までは、2日以上間が空いてしまっていた。また、質問への答えはない。

#### ●主観的気づき

メールをやろうとしない、それはなぜか。本生徒にとって、今の段階では必要性が全くないから、と考える。現時点で生徒にとって必要性が出ておらず、進展は見られない。

しかし、1月「謹賀新年」とあいさつをメール送信すると、その日のうちに返信が来た。この真意は分からない。

#### 4 「遊ぶ」について

##### ○遊ぶ、は増えた

昼食時間を過ごす新たな居場所ができたこと、アプリで自分の学んだ知識を活用してクイズを解いていくこと、端末を操作することは関心が高く、意欲的に行っていた。これが、本生徒にとっての、「遊ぶ」かもしれない。昼食時間に遊ぶ方法は確実に一つ増えたと言える。主に、学習に関するアプリではあるが、知識を総動員して答えを出せることは、本生徒にとって飽きずに集中して取り組めることである。

#### ●主観的気づき

端末を間に入れることで、かかわりがコミュニケーションに偏ることのない安堵感を感じているようにも受け取れる。

#### 【最後に】

##### ○普通科高等学校としての難しさ

本校は、教員のほとんどが、担当講座の生徒の中に、多動、注意欠如、等発達障害的な要素を感じ取っている。しかし、コミュニケーションに難しさを抱える生徒、ディスレクシアのある生徒がいても、問題行動等がなければ、見過ごしてしまうことが多々ある。また、義務教育と違って、高校は自己責任という考え方もあり、単位を取得する方法を教えても、自分から支援を申し出ることがなければ、教員側から支援方法を検討する場の設定をするという考え方は必ずしも浸透していない。

一方、生徒側も、困難さに対する支援ツールを特に求めず、あるいは困難さを明確に自覚せず、過ごしてしまっている。困難さを抱えながらも、出席を重ね、課題をほどほどに提出することで、静かに小中学校を卒業し、高校でもすれすれながらも単位を取得し卒業しているケースがあると推測している。

特別支援学校から異動し、高等学校で国語を教え1年となるが、「単位を取得する」というだけでは、生徒が自分の困難さに気づき何とかしたいと思うモチベーションは上がらない、ということがはっきりと分かった。「学びたい」「分かった、楽しい」「もっとやってみたい」こんな気持ちが生まれたとき、自分の抱える困難さに向き合うのではないかと思う。逆に考えれば、教師側が、生徒の実態を見極め、困難さを抱える生徒にも理解可能で、ちょっと難しい課題を含んだ授業、「できた、楽しい」「分かった、そうか！」と言った授業ができれば、困難さを抱える生徒をなんとか引っ張って行けるのではないかと思っている。これは、今後継続して課題となるところだ。

##### ○対象生徒 A さんの素敵さに2月やっと触れることができた！

「A さんは、コミュニケーションに困難さを抱える生徒」、これは、A さんを養護教諭に紹介され、A さんを考えるときの枕詞になっていた。しかし、校外学習先から一人で帰る、校外活動先へ一人で行く、など、数々の難関を体験し、ちょっと失敗をしながらも、2年次の修学旅行では、羽田空港に教師より先に到着するなど、A さんはゆっくりと成長している。A さんは、ちょっとした失敗をしっかりと受け止め、繰り返さないよう、一人で努力していた。これには、ネットでの情報収集が大いに役立ったが、コミュニケーションが苦手な A さんにとって、ネットでの情報収集は、大切な支援ツールとなっていた。

2月の面談で、ネットで蝶を検索し、沖縄で見た蝶の話をしようとした A さん。「次の授業あるよね。もう、今日は終わりだね」と私が言いだすまで、面談室から出ようとしなかった。よほど伝えたい事があったのだろうなあ、と思う。そして、A さんのコミュニケーションは、この路線を広げていけばよいのだろうと、このとき確信した。

○iPad を真ん中に入れて過ごした1年

A くんとの1年間はもうすぐ終わる。iPad を介したやりとりをすることで、人と人が向かい合っているコミュニケーションが苦手な A くん心理的ストレスを軽減することができたことは明らかであった。また、羽田空港へ無事行けるか、といった、A くん悩み事も、ネット情報を活用することで、準備万端→いざ、実行→成功、といった結果を生むことができた。帰りの飛行機の中では、美ら海水族館の魚たちを素晴らしい鉛筆画で描き上げ、「面白かった?沖縄」の質問に、うなづいた A くん。iPad は、静かに A くと私の中に存在し、A くん心理的圧迫を減らしてくれた。

A くんは、来年、高校3年。卒業の年である。興味あることに対して、A くんが、熱心に粘り強く取り組めることを武器としていけるよう、今後も A くと面談を続けていければと考えている。